

株式会社丸井グループ

2020年3月期 第1四半期決算 電話会議

<決算概要説明>

FACTBOOK冒頭のダイジェストに沿いまして、
2020年3月期 第1四半期の決算概要についてご説明させていただきます。

まず、①**連結業績** の表をご覧ください。

中期計画のK P IとしておりますE P Sは、1%減の25.7円。

当期利益の減少により、5年ぶりに前年を下回りました。

- グループ総取扱高は17%増の6,858億円、
フィンテックセグメントにおけるショッピングクレジット取扱高が18%増と、
前年よりも3ポイント伸長し、全体を牽引いたしました。
- 売上収益は、小売セグメントにおける売上減少により、
1%減の574億円、第1四半期では2年ぶりの減収となりました。
- 売上総利益は、3%増の458億円、9期連続の増益となりました。
- 販管費は、小売のS C・定借化によりコスト削減が進みましたが、
フィンテック拡大による変動費の増加などにより、3%増の370億円となりました。
- その結果、営業利益は2%増の88億円となり、5期連続の増益となりました。
通期予想に対しての進捗率は19%と、前年をやや下回る水準となりました。
- 当期利益につきましては、前年に計上した固定資産売却益の反動もあり、
2%減の56億円、5年ぶりの減益となりました。

次に、②**営業利益増加の内訳** についてご説明いたします。

- 2019年3月期にてリボ債権の流動化を実施し、
第1四半期では流動化償却による特殊要因がマイナス3億円ありましたので、

実質的な営業利益は6%増の91億円となりました。

- 流動化償却はフィンテックセグメントにおける特殊要因なので、その影響を除くと、フィンテックセグメントの実質的な増益は9億円プラスとなりました。
- 小売セグメントは1億円マイナスとなりました。
- また、研究開発費の増加などで全社・消去が3億円増加したため、この結果、連結では5億円の实質増益となりました。

次に、③**バランスシートの状況** の表についてご説明いたします。

- 営業債権は引き続きショッピングクレジットの拡大により、前期末に対し、流動化額込みで202億円増加いたしました。
- 第1四半期にて、1回払いの債権流動化による調達を150億円おこないましたので、流動化比率は、2021年3月期の目安25%に対して、6月末は19.1%となりました。なお、1回払いの債権流動化のため、損益影響はございません。
- 有利子負債は、増加した営業債権への対応により前期末に対して217億円増加いたしました。
- 営業債権に対する有利子負債の比率は、89.1%、自己資本比率は、31.5%となっております。

中段に移りまして、④**キャッシュ・フローの状況** でございます。

- 営業キャッシュ・フローから営業債権等の増加を除いた、基礎営業キャッシュ・フローは、前年に対して7億円のキャッシュアウト増となりました。これは法人税等支払いによるキャッシュアウトが前年より増加したためです。また、当期はF A B R I C T O K Y Oなどのスタートアップ企業3社、投資ファンド2社への出資を実施したこともあり、改装投資もあわせた投資キャッシュ・フローがトータル73億円のキャッシュアウト、前年に対して27億円のキャッシュアウト増となっております。

続きまして、⑤**セグメント別利益** の表をご覧ください。

- 小売セグメントの営業利益は4%減の24億円、
フィンテックセグメントの営業利益は7%増の81億円となりましたが、
②営業利益増加の内訳でご説明した通り、
特殊要因を除くフィンテックセグメントの実質的な営業利益は、
84億円となりました。
- また、ROICは、連結で0.8%となっており、前年と同水準となります。

続きまして、⑥**小売セグメントの状況** について、チャートに基づきご説明いたします。

- 利益の内訳ですが、増加要因としては
SC・定借化による収益改善が着実に進んだことにより、
3億円のプラスとなりました。
定借化100%完了後も、引き続き後方スペースの売場化や
自主専門店からの切り替えにより、6月末の定借化率は、107%となりました。
- 一方、仕入区画等につきましては、自主専門店や仕入区画の売上不振により、
1.5億円のマイナスでした。
- Eコマースにつきましては、既存客の売上が、PBの不振などにより落ち込み、
1.5億円マイナスとなりました。
- また、店舗内装の改装工事の減少等により、プラットフォームは
1億円のマイナスでした。
- 以上の結果、小売セグメントは第1四半期で4%減、1億円の減益となりました。

次に、下段の⑦**フィンテックセグメントの状況** についてです。

- 先ほどお話した通り、フィンテックセグメントの営業利益は、
7%増の81億円となりました。
また、特殊要因を除く実質的な営業利益は、12%増の84億円となり、
通期予想に対する進捗率は22%で、前年とほぼ同じ水準で推移しています。

- 第1四半期の新規カード会員数は、前年に対して1万人増の20万人となりました。ネットおよびサービス分野からの入会拡大が寄与しました。
- 6月末のカード会員数は前年に対して35万人増の697万人となりました。うちプラチナ・ゴールド会員は32万人増の222万人、総会員数における構成比は32%となり、メインカード化が着実に進んでおります。
- 取扱高に関しては、ゴールド・プラチナ会員取扱高が全体を牽引したほか、家賃保証ビジネスの拡大にともない、18%増の6,308億円となりました。
- 流動化債権を含むショッピングのリボ・分割払い残高は、10%増の3,421億円となりました。支払い方法の利便性の向上や分割払いのご利用拡大の施策が、引き続き残高の増加につながっております。また、流動化債権を含むキャッシングの残高はカード会員の増加にともない、3%増の1,521億円となりました。

ここで、ダイジェストにはございませんが、**ESGの状況** についてご説明いたします。

- この度、GPIFが採用する3つのESG指数すべてに3年連続で選定されました。
- そして、責任投資の世界的な代表指標『FTSE4Good Index Series』の構成銘柄にも3年連続で採用されました。
- また、IRDAY、有価証券報告書に続いて、今回の決算短信にもTCFDについて記載をしておりますので、ご確認いただければと思います。
- 今後も、ESG経営のフロントランナーになるべく、すべての人が取り残されることなく「しあわせ」を感じられる、インクルーシブで豊かな社会をめざし、ステークホルダーの皆さまと共創サステナビリティ経営に、積極的に取り組んでまいります。

ダイジェストに戻りまして、最後に、**⑧2020年3月期予想** をご覧ください。

- 第1四半期の進捗率は小売セグメントの減益などにより、前年をやや下回りましたが、収益の拡大に向けた施策やコストの見直しを

図ることを進めておりますので、業績予想の修正はございません。

以上